

# 未来を拓く 直観力

永倉尚樹  
NAOKI NAGAKURA

過去は幻影としての刺激を保ちながら、  
その生命の光と動きを取り戻して現在となる

—— シャルル・ボードレーール『ロマン派芸術論』より

## はじめに

ある時、少し年下の友人と話している中で、こんな話題になりました。

「いい人生つて、どんなイメージを持つている？」

彼は「お金に不自由しない生活かな……」と言い、つづけて誰もが羨むような豪邸に住む、毎日のように美味しいものを食べ、それを気前よく友人たちに振る舞いながら遊んで日々を暮らす……等々と話しはじめました。

自分で起業してもうすぐ1年という彼からすれば、お金もある程度稼げるようになって自由に使えることが楽しめる時期であり、もつともな回答かもしれません。また、彼には商才があるので、順調にいけば一定の収入を安定して得られるようになるはず。そうなれば、今度はお金では買えない時間や健康を意識し、そこに不自由がないことを理想的な人生だと考えるようになることでしょう。もしかしたら、家族や友人といった自分を大事に考えてくれる存在がいること、社会での名声や歴史的な評価を得ることに理想を求められるかもしれません。

そうやって人間は、状況によって自身の理想像を変えながら生きていくものであり、本能と理性を使い分けながら、日々選択をくり返していくものなのです。

これは私も同じで、毎日のようにいろいろな選択を迫られるシーンに遭遇します。「朝ごはんは何を食べようか」「何を着て出かけようか」といった些細なことから、「この会社と取引するべきか」といったビジネス上の判断、「あの人の話を信じるべきか」といった人間関係など内容も様々です。

そんな時に重視することは「アツ」という間に終わつたと思えるほど、楽しい時間が「過ぎせるかどうか」ということ。人生において限りある時間を、いかに価値的に、心から楽しめるかということをも本能的に判断しているのです。字面だけだとスピリチュアルな印象になりますが、私は心の目で観て本質を捉えるという意味がある「直観」という言葉で、ほかの人に伝えてきました。

直観とは、同じ読みの「直感」とは異なります。勘や当てずっぽう、なんとなく肌で感じ取る感覚というのが「直感」だとすると、「直観」はさらに深く物事の本質に迫っ

て観ていくものです。だから直観で判断したことは、すべて合理的に説明することができます。

実は、これは周囲の人たちがヒントをくれるまで気づかなかったのですが、私には一つの物事を限界まで調べ尽くし、目には見えない本質まで把握しようとするクセがあり、それを楽しむ自分が存在します。その上で、物事の本質と自分の「本能」を照らし合わせながら判断を下しているのです。また、そのプロセスにおいては「ひらめき」があり、判断する際には様々な「視点」を用います。それらを総じて直観での判断と定義しています。

直観での判断には、単なる直感とは比較できないくらいの時間とエネルギーをかけます。だからこそ、どんな判断を下したとしても筋の通った説明をできる理由がハッキリと存在するのです。そして、直観での判断には迷いや後悔はありません。あらゆることを達観できるようになり、楽しく充実した日々を歩むことができているのです。

この本を執筆した時点で私は35歳ですが、人生の分岐点ともいえる瞬間がいくつも

ありました。少しだけ触れてみると、

- ・ 中学2年生の夏休みに、ふとしたきっかけからビジネスをはじめたこと
- ・ そのビジネスが成功し、親の年収を超えたこと
- ・ 周囲の意見に流されて、一旦は成功したビジネスをやめてしまったこと
- ・ 20代で1日に100円しか使えない生活に陥るも、すぐに復活したこと
- ・ 10万人に1人しか発症しないといわれる難病を克服したこと
- ・ 自分のための理想の部屋探しから一級建築士事務所で働くようになり、独立して会社を興したこと
- ・ 直観で生き、人生を楽しむことに全力を注げるようになったこと

などでしょうか。振り返ってみれば、常に「直観」で物事を考え、決断すること、人生を切り拓くことができました。そして、それぞれの瞬間で、多くの学びや気づきがあり、多くの人との出会いがあり、さらにたくさんさんの経験を積み重ねることができたのだと思います。だからこそ今度は、これらの経験で培った思考と生き方をより多

くの人に伝えたい。そんな想いを込め、一冊にまとめました。

本書では、「直観」というキーワードを軸に、私らしい考え方とこれまでの人生での体験を盛り込みました。この本を読まれた方が、「そうか、こんな生き方もあるんだな」「こう考えれば、結果も変わるのかな」「もつと自分の人生について考えてみよう」と思う一つの機会、自分らしい未来を拓くきっかけとなれば幸いです。

少し先の未来に、この本を読んで成功した人と出会い、一緒に楽しい時間を送れることを楽しみにしています。

永倉 尚樹

はじめに 3

# 第1章 直観を信じることが成功への第一歩

- 01 思いつき、直感とは異なる「直観」 14
- 02 なぜ直観を信じるのか 24
- 03 直観には、必ず理由がある 31
- 04 直観で判断するためのリサーチ術 36
- 05 直観で人を見抜く 42
- 06 直観は、人生の価値観とともに変わる 48



## 第2章 本能を呼び覚ます

- 07 大きな決断の前に、直観を磨く 53
- 08 不安なとき、うまくいかないときこそ直観を意識する 58
- 09 自分を動かす「本能」を目覚めさせる 66
- 10 本能を発揮しての直観は大きな成果を生む 72
- 11 本能をないがしろにして失敗 78
- 12 苦境で蓄積される爆発的エネルギー 82
- 13 人生で大切なものを意識する 86
- 14 自分が本能を発揮できる環境をつくる 92
- 15 期限を決めて、直観を試す 98

### 第3章 ひらめきと直観

- 16 ひらめきには平等性がある 106
- 17 切羽詰まったシーンでは、優先順位をつける 111
- 18 リラックスしたシーンでは、すべて受け入れる 117
- 19 ひらめきを生じさせる「余裕」づくり 120

### 第4章 直観の判断を高める「視点」

- 20 直観における視点の重要性 126
- 21 「3歳児になる」という視点から捉える 130
- 22 「時」に関連する二つの視点と判断 136
- 23 「すべてが好き」という視点をもつ可能性 142

## 第5章 未来のための直観

- 24 未来は、直観で変えられることもある 148
- 25 失敗はリスク、賞賛すべきものではない 157
- 26 変化を受け止めながら、良き未来をつくる 163
- 27 直観で観た私の未来像 168

## 第6章 相手の人生を観る直観

- ケース1…お金の使い方、優先順位ってあるの？ 177
- ケース2…本能のまま人脈を広げるといふこと 182
- ケース3…先行投資をするための借金は、悪なのか？ 189

ケース4…異業種への転職は、果たして直観の判断なのか？

195

ケース5…直観でNGだと判断しても退けない決断の時、考えること

200

おわりに 「自分の進むべき方向がわからない」と悩む貴方へ

204